

中間報告書

補助事業名	中之島に馳を放つⅡ—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム							
事業期間	令和5年4月1日～令和6年2月29日			大学名	国立大学法人大阪大学			
実施概要	<p>本事業は、大阪大学中之島芸術センター、大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学総合学術博物館が共同で主催し推進する3年計画のアート人材育成プログラムである。このプログラムでは、中之島近隣および大阪大学近隣の諸芸術機関(劇場・音楽堂・美術館等)と連携し、主として社会人のためにアート人材を育成する。今日アート人材に求められるのは、専門分野に限定した特殊能力ではなく、多様な芸術ジャンルに精通し、現代文化の複雑な諸課題に柔軟に対応できる実践力である。アーティストとの交渉能力を備え、地域社会とのファンリレーション力を持ち、アート創造のプロセスに関わることのできる能力を持つ人材が求められている。現在様々な分野で活躍する、アーティスト、アートディレクター、研究者等と受講生とが交流を深め、ネットワークを構築し、アートによる多面的な価値の創出を目指す。アートマネジメント関連職種や芸術系諸機関での就職を希望する人や既に就職している人を中心に募集し、受講者を15名程度とする。本事業では、本プログラムの拠点となる予定の大阪大学中之島センター近隣の芸術諸機関、大学近隣の地域社会、また広くアジアやヨーロッパなどから、アーティストと一般市民が集い、多様な生を実現していくためのアート人材を育成する。プログラムには統括セッション(全体を統括するオープニング・セミナー、レクチャー・シリーズ、クロージング・シンポジウム)と4つのリサーチ・フレーム(「場所のナラティブ」「アートとその分身」「臨床のアート」「日常のボイエティーク」)を設定する。フレームの中には、レクチャー、リサーチ、ワークショップ、クリエーション等のステップを組み込み、基礎から応用、成果公表まで配置してアート・プログラムを推進し、縦横に交差しつつ学びながら、総合的な実践能力を育成する。これら5つの活動(4つのリサーチ・フレームと統括セッション)に、3単元ずつを割り当て、15単元を履修しかつ最終レポートを提出した受講生には修了証を交付する。近隣の芸術関連諸機関からアドバイザーとして協力を受ける。事務局に特任の職員1名を置く。</p> <p style="text-align: center;">※ 詳細(講座名、講師名、コマ数、公演名、会場名、公演回数等)は下部の各活動欄に記入してください。</p>							
共催者名・後援者名・協賛者名等とその役割	大阪大学中之島芸術センター、大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学総合学術博物館が共同主催となる。連携機関は、あいおいニッセイ同和損保・フェニックスホール、浄るりシアター、吹田市文化振興事業団(メインアター)、豊中市都市活力部魅力文化創造課、兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコシアター)、箕面市メイプル文化財団。連携機関からのアドバイザーは事業担当者とともに「大学博物館と共創するアート人材育成プログラム協議会」を組織し、プログラム全体を監督し、評価に努める。							
全活動合計	計画	実績	差	計画と実績の差異理由				
来場者	0	0	0	当初、人材育成対象者を15名～20名程度で募集する予定であったが、強い熱意のある応募が多数となり、また多数のリピーターからも応募があったため、特例として49名を受け入れることとなった。				
育成対象者	30	98	68					
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業職員	その他
	人数	24	16	8	0	2	18	30
育成対象者具体的な職業	財団職員(文化芸術関係)、NPO法人職員、小中高大教員、学校職員、会社員、学生・大学院生、個人事務所経営、文化芸術関係個人事業者、フリーランス(文化芸術関係実演者)							
アートマネジメント人材育成目標	申請時			達成状況				
	大阪大学人文学研究科には、芸術学専攻があり、日本東洋美術史・西洋美術史コースや美学・文芸学コースに加え、国立大学では珍しい、音楽学・演劇学コースやアート・メディア論コースを有しており、研究や教育の蓄積がある。また、近隣の芸術諸機関との連携も密で、常に協力関係にある。さらに、本年度(2023年)に新設された大阪大学中之島芸術センターには、展示室や作業室、スタジオと楽屋を有する施設であり、従来の座学や研究に加え、実践的な教育や研究も行うことができる。この両者に、実践的な研究、教育を行っており、社会学連携にも実績のある大阪大学総合学術博物館を加え、三者共同でアートマネジメント人材育成事業を推進する。それぞれの研究成果や教育実績、人脈等の蓄積、豊かな(かつ自らが有する)施設などを活用し、主に社会人を対象としたアートマネジメント人材の育成を行う。なお、大阪大学の芸術系の教員は「大学における文化芸術推進事業」の十分な実績があり、教育、研究および実践活動において、様々なプログラムを提供することができる。大学での蓄積と事業実績を組み合わせることで人材育成を行う。			本事業は、芸術系研究教育機関として創設された大阪大学中之島芸術センターを中心に、人文学研究科、大阪大学総合学術博物館の共同で主催される。大学のこの新しい3つの組織の研究教育力を背景にし、集積したプログラムとして推進している。本事業では実際のアートの現場で働く人々やそれらの職種への就職を希望する人々の教育を行う。今日のアートに求められているものは、共同体や社会の中で自己実現を果たすための媒介としての役割、人々の繋がりを強固にする紐帯、忘れられがちな記憶を鮮明にし価値を変換する装置としての役割など多岐に渡る。それらを実現し推進していくアート人材には、アートを展開する場や共同体の特性に応じて、臨機応変に対応していく実践的な能力が求められる。このようなアートやアートマネージャーに求められる現代的な課題解決方法を、設定した4つのリサーチ・フレームを横断的に行き来して実践的に学ぶことで、今日的で未来的なアート人材を、人文学研究科における研究基盤と総合学術博物館の史資料、大阪大学中之島芸術センターのリソースとの連携により養成している。				
事業の社会的な役割、効果	申請時			達成状況				
	大学を舞台に、アートやアーティストと大学の研究、一般社会をつなぐリサーチ型アート・プログラムを実施し、大学発信型のアート・プロジェクトを生み出していく。また大学、社会人のアートを通した「アート・ネットワーク」と呼ぶ新しい社会構造を創り出すことで、アートや大学研究の持つ意義を社会へ提示する。			大阪大学中之島芸術センターを拠点に、各プログラムを推進しており、すでに本プログラムと大学教育プログラムとの共創も起きている。今後も継続してプログラムを行い、特に各プログラムのプロダクションにおいては、社会課題解決の手掛かりとなるだろう。受講生は、アートやアートマネジメントに関心のある、様々な属性の受講生を受け入れ、ネットワークができていく。				
事業に関して学会発表、メディアでの掲載実績や予定	大阪大学中之島芸術センターで、本プログラムおよび関連したプログラムについてのシンポジウムなどを実施する予定のほか、「日本演劇学会分科会近現代演劇研究会」における研究発表のほか、各プログラムに関係した研究発表も予定している。なお、「全国大学博物館等協議会」においては、大阪大学中之島芸術センター推進する大きな事業のひとつとして既に本事業を報告済みである。また、本プログラムのひとつ、(場所のナラティブ)都市のアルケオロジーⅡで受講生と共にリサーチをし、つくった演劇作品「中之島デリバティブⅡ」に関しては、10月11日付の毎日新聞に記事が掲載されている。							
事業で得た課題や経験、今後の活用方法	本事業ではプログラムを大きく「統括セッション」と「リサーチフレーム」にわけ、さらにリサーチフレームには4つのテーマに基づいたフレームを設置し、レクチャー、リサーチ、ワークショップ、プロダクションの4段階にて教育を行っている。担当者それぞれの研究や経験・知見に基づいた充実したプログラムを設置しているが、テーマを4つにまとめたことで受講生には理解のしやすい構造となったのではないだろうか。また、プログラムの中でも、4つのステップで学習できるようにしたため、この方法は、教育、人材育成プログラム等の場面で活用できるのではないかと考えている。一方で、プログラム数については過剰になっているという声もあり、短期間で導入から発表までのつなげ方は課題となっている。							
担当者所属・氏名	人文学研究科豊中事務部	電話	06-6850-5860					
	経理係 山中 正	E-mail	jibun-keiri@office.osaka-u.ac.jp					

活動①

講座名 企画名	〈統括セッション〉「中之島に甍を放つⅡ」オープニング・セミナー、「中之島に甍を放つⅡ」クロージング・シンポジウム							
講師名 出演者名	檜皮一彦(アーティスト)、伊東信宏(大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学中之島芸術センター)、永田靖(大阪大学中之島芸術センター)、渡辺浩司(大阪大学大学院人文学研究科)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)、岡田裕成(大阪大学大学院人文学研究科)、高安啓介(大阪大学大学院人文学研究科)、古後奈緒子(大阪大学大学院人文学研究科)、鈴木聖子(大阪大学大学院人文学研究科)、伊藤謙(大阪大学総合学術博物館)、横田洋(大阪大学総合学術博物館)、山崎達哉(大阪大学中之島芸術センター)、鄭実香(大阪大学中之島芸術センター)							
日時	令和5年7月8日				コマ数	1コマ(1コマ3時間)		
会場・教室	大阪大学中之島芸術センター スタジオ					計画	実績	差
					来場者	0	0	0
					育成対象者	15	49	34
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設 職員	公共機関 職員	民間団体 職員	民間企業 社員	その他
	人数	12	8	4	0	1	9	15
実施概要	<p>活動①は、本事業を統括するものである。 本事業は3年間の計画である。2年度目に当たる令和5年度は、3年間にわたる本事業全体の発展期間と位置づける。4つのリサーチ・フレーム「場所のナラティブ」「アートとその分身」「臨床のアート」「日常のポイエティック」を設定し、それぞれを縦横に交錯させ、実施する。それぞれのフレームには、多ジャンルの芸術領域のプログラムを用意し、レクチャー、ワークショップ、リサーチ、クリエイションの4ステップを踏みながら、アート活動における基礎、応用、成果発表までを体験的に学習できるプログラムを提供する。 本事業全体としてはまず5月に育成対象者となる受講生を募集する。育成対象者は、芸術諸機関で働く職員、芸術イベントの企画制作を行っているフリーランスのプロデューサーやディレクター、今後これら芸術をマネジメントやファシリテートする職種への転職や就職を希望している社会人を主とし、学生も歓迎する。</p> <p>・「オープニング・セミナー」(計1コマ) 7月8日に大阪大学中之島芸術センター・スタジオにて、本年度の事業の「オープニング・セミナー」を開催した。このセミナーは、(A)本事業全体のオリエンテーション、(B)各事業担当者による講義から構成される。このセミナーによって、本事業の理念を共有し、1年間の本事業全体の状況を把握した。また、各活動の趣旨やねらいの下で各活動に受講生と事業担当者がどう関わるかを確認した。受講生と事業担当者として推進する活動について議論を行い、実践的な活動を行う素地を養った。</p>							
アートマネジメント 人材育成目標	申請時				達成状況			
	オープニング・セミナーでは、本事業全体のガイダンスと各事業担当者による講演を実施することにより、多種多様な芸術に関する基礎知識を学ぶとともに、都市や地域における芸術活動の問題点、社会におけるアートを活用した課題解決方法の実践について学ぶ。				4つのリサーチ・フレーム「場所のナラティブ」「アートとその分身」「臨床のアート」「日常のポイエティック」と、そのフレームごとの4つのステップ(「レクチャー」、「ワークショップ」、「リサーチ」、「クリエイション」)の配置を把握し、1年間の本プログラムの目的を受講生と共有した。			
活動で得た課題 や経験、今後の 活用予定	各担当者の専門によった4つのリサーチ・フレーム「場所のナラティブ」「アートとその分身」「臨床のアート」「日常のポイエティック」を推進することで、目的や過程が明確となり、各プログラムのプロダクションまでが見据えやすくなっている。また、フレームごとに、「レクチャー」、「ワークショップ」、「リサーチ」、「クリエイション」の4つのステップを配置することで、プログラムの運営方法が明らかとなった。プログラム推進する上で、目的と過程、また講座の編成方法はあらゆる場面で活用できる。							

活動②

講座名 企画名	〈統括セッション〉「中之島に颯を放つⅡ」サマースクール「臨界のアートへ」							
講師名 出演者名	檜皮一彦(アーティスト)、中村恭子(大阪大学中之島芸術センター)、園田郁(大阪大学中之島芸術センター)、伊東信宏(大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学中之島芸術センター)、永田靖(大阪大学中之島芸術センター)、渡辺浩司(大阪大学大学院人文学研究科)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)、岡田裕成(大阪大学大学院人文学研究科)、高安啓介(大阪大学大学院人文学研究科)、古後奈緒子(大阪大学大学院人文学研究科)、鈴木聖子(大阪大学大学院人文学研究科)、伊藤謙(大阪大学総合学術博物館)、横田洋(大阪大学総合学術博物館)、山崎達哉(大阪大学中之島芸術センター)、鄭実香(大阪大学中之島芸術センター)							
日時	8月16日(水)、8月17日(木)、8月18日(金)、8月21日(月)、8月22日(火)				コマ数	8コマ(1コマ1時間)		
会場・教室	大阪大学中之島芸術センター スタジオ					計画	実績	差
					来場者	0	0	0
					育成対象者	15	49	34
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	12	8	4	0	1	9	15
実施概要	<p>本事業全体の導入的基礎レクチャーとして、「サマースクール」と題した連続レクチャーを行った。担当講師は、事業担当者のほか、芸術学系の研究者、アート関係の実務に携わる担当者等で構成される。これらのレクチャーにより、芸術学における研究や教育について、およびアート界隈で起きている現場状況についての知見を得る。</p> <p>芸術学系の講師による、アートに関する研究や教育などのレクチャーや、制作やキュレーションなどアートの実務に関わる内容のレクチャーを実施する。これにより、アートが抱える現状や、アートが展開される現場での知見を得る。また、4つのリサーチフレームへの橋渡しをしつつ、理解を深め、内容を把握することもでき、関連した知見を得るとともにプログラムへと連結させる。</p> <p>サマースクール「臨界のアートへ」は以下の構成で実施した。</p> <p>・8月16日(水) 19:00～20:00 山崎達哉、檜皮一彦(ゲスト講師)「Nakanoshima Wasshoi Festival 2023 -Day1」</p> <p>・8月17日(木) 19:00～20:00 永田靖「金森マユ作品とムラカミヤスキチ」 20:10～21:10 鈴木聖子、園田郁(ゲスト講師)「人形芝居の声を聴く」 20:10～20:30 鈴木聖子「目に見えぬものの声に耳を澄ますための人形[ヒトガタ]」(鈴木) 20:30～21:10 園田郁「「聴く」を拓く-人形芝居の声と言葉のカタチ」</p> <p>・8月18日(金) 19:00～20:00 伊東信宏「『ペドロ親方の人形芝居』とスペインの音楽的伝統」 20:10～21:10 岡田裕成「セルバンテスのスペイン、スペイン美術の中のドン・キホーテ」</p> <p>・8月21日(月) 19:00～20:00 中村恭子(ゲスト講師)「C. フーリエの未来の肉体としての反古墳——いや、墓とは？」</p> <p>・8月22日(火) 19:00～20:10 高安啓介「労働の喜びの表現としての芸術—ウィリアム・モリスの社会思想」 20:10～21:10 橋爪節也「中之島乗船ツアーとエコ・ミュージアムを語る」</p>							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	アートマネジメント人材には、理論的な思考と、実践的な作業を行うことの両方が求められる。このレクチャーシリーズを通して、芸術学系のレクチャーと実践系のレクチャーを実施することで、受講生は理論と実践の両方から、アートマネジメントに必要な知識や経験を得ることができる。また4つのリサーチフレームと関連づけることで、より詳細にプログラムについて知ることができる。				本事業担当者および大阪大学中之島芸術センターの教員によるワークショップやレクチャーを実施することで、本プログラムについての理解を深めると共に、4つのリサーチフレームとの関連を濃くすることができた。また、ゲスト講師として、大阪大学中之島芸術センターの教員を迎えることで、さらに広い視野のアートやアートプロジェクト、アートマネジメントについて学習することができた。			
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	連続レクチャーを行うことで、受講生は、アートが抱える現状や、アートが展開される現場での知見を得ることができ、学習の一助となった。また、4つのリサーチフレームについての理解が深まり、各プログラムへの取り組みが強固となった。各プログラムではすぐに内容に入ってしまうが、一度全体でレクチャーの機会を設ける重要さがわかった。一方で、実践的なレクチャーやワークショップは一部でのみの達成だったため、今後の課題としたい。							